官省院廳府縣

海軍武官官等表中掌砲上長
提督造工長廳ヲ廢シ一等兵曹
達候事

太政大臣　三條實美

等

任

官

曹長

府縣國館沖縄札幌根室四縣ヲ除ノ内國庫下渡金殘餘翌年度
降當省ヘ可差出此旨相達候

内務卿　山縣有朋

海軍一般

達海軍卒職名表中信號夫船
此旨相達候事

海軍卿　川村純義

海軍一般

軍下士服役規則相達候ニ付
ノ通相定ム此旨相達候事

海軍卿　川村純義

名ハ其一ケ月前艦船營長所
ヘシ

ヲ定メ艦船營長ニ願出ヘシ
行狀ヲ審査シ自己ノ意見ヲ
長官ハ海軍卿ノ允可ヲ得ヲ

海軍卿　川村純義

項ニ準ス可シ

海軍一般

ノ(白月)ヲ(百二十日)ト改
月給)ヲ(本俸半額)ト改ム此

海軍卿　川村純義

府縣

時事新報

歴史教授ノ新案

凡ソ歴史ヲ學ブノ目的ハ既往數千百年來社會ノ間ニ起ル所ノ現象ヲ觀察シ其成蹟ニ就テ將來起ラントスル所ノ人事如何ヲ豫知スルニ在リ故ニ古往今來社會ノ沿革、國家ノ興廢、事物ノ成敗ノ如キ能ク其原因結果ヲ瞭然タラシメザル可ラズ殊ニ各學科上ニ就テハ其事屬々發現シ其蹟屢々同一ナルヲ見テ研磨考究竟ニ一定ノ法則ヲ發見シ苟クモ此法則ヲ一ダビ發見スルトキハ未タ起ラザル所ノ處、未タ來ラザル所ノ事モ亦能ク推測算定スルヲ得テ一興一敗、千變萬化一モ驚クニ足ラズ毫モ怪ムニ足ラズ更ニ能ク之ヲ適應利用シテ大ニ將來ノ進歩ヲ促シ又或ハ禍根ヲ未萌ニ防クヲ得ベキナリ其功用隨分偉大ナリト申ス可シ、サレドモ理學化學ノ原則ヲ發見シ數理天文ノ定則ヲ認識スルニ至テハ古ク既往ノ事ヲ繹ヲザルモ只將來改良進歩ノ途ヲ誤ラザレバ事充分ニシテ此場合ニ及テハ古キ歴史ノ詮鑒モ亦太タ要用ナラザルニ至ル可シ畢竟學問ニ貴ブ所ハ既ニ知リ得タルヲニアラズシテ將ニ知ラントスルヲニ在ルモノナリト知ル可シ

然ルニ歴史科ノ要用ナルニ眩惑シ勵スレバ只管古代ノ事物ノミニ注目シ又ハ永々シキ年代配ヲ反覆シテ當代文明ニ益モナク緑モナキヲヲ研究シ歴史ノ眞意ヲ得タリトスル者ナキニアラズ是レ大ナル謬見ト謂フ可シ、前ニ云ル如ク歴史ハ既往ノ人事ニ鑒ミ將來ノ用ヲナサントスルモノナレバ苟クモ將來ノ用ニ足ラズ又既ニ一定ノ法則ヲ認識シ得タルモノハ豈ニ復タ歴史ヲ詮鑒スルヲ須サンヤ宜ニ世ニ益ナキノミナラズ却テ大障礙ヲ與フルヲアル可シ兎角普通ノ人情ハ舊慣ニ泥ミ目前ノ小利ニ忸レ改良進歩ノ氣象之シキモノナルニ尚且古代ノ歴史ヲ援キ來リテ之レガ根據ヲ立ツルトキハ愈益々逡巡沮礙シテ日新ノ勢ヲ減殺シ勵スレバ復古ノ傾向ヲ來スニ至ル仮令ヒ日新進歩ノ大勢ニ抗スルヲ能ハザルモ之レカ爲メニ多少ノ日月ト多少ノ腦力ヲ徒費スル丈ケハ全ク損耗ニ歸ス可キモノトス、殊ニ近代蒸氣電信等ノ文明ノ器具盛ンニ利用廣布セラルヽニ至テハ人類頓ニ羽翼ヲ生シ山嶽忽チ其峻險ヲ失ヒ大海亦其廣濶ヲ失ヒ人心一變シテ社會ノ事物秩序ヲ改メ天然ノ地理一タビ破却シテ全ク其舊形ヲ保ツヲ能ハズ安ンゾ古代ノ歴史ニ依テ今代以後ノ事蹟ヲ推測スルヲ得可ケンヤ、サレバ一世紀ヲ經ルニ隨ヒ社會ノ組織自ラ顚倒錯雜シ前世紀ノ事蹟モ亦後世紀ノ事ヲ計ルニ足ラザルモノアリ古代歴史ノ要ナキ亦論ナキノミ況ンヤ歴史專修ノ科ニアラズシテ普通小學等ニ授クル歴史談ニ於テオヤ是レ最モ速カニ改良セザル可カラザルヲナリ

或ル教育家ノ說ニ我邦小學校ニ於テ歴史ノ學科ヲ授クルニ逆行顚倒ノ法ヲ用ヰテハ如何ト云フコトアリ即チ近世ノ歴史ヲ前ニシ中古、上古ノ歴史ヲ後ニスルヲ是レナリ、此說頗ル我輩ノ心ヲ獲タルモノナリ夫ノ地理ヲ教授スルヲ見ズヤ生徒ノ住所即チ學校近傍ノ地形ヨリ說キ起シ生徒ノ現ニ目擊スル山谷河海等ニ就キテ概況ヲ理會セシメ近隣ノ地理ヨリ都會國郡ニ及ビ漸次ニ地球上各國ノ地理大要ヲ學バシム是レ則チ近ヨリ遠ニ及ブノ法ナリ而シテ地理ト歴史トハ密接ノ關係ヲ有シ兩科相須チテ用ヰナスモノ頗ル多シ然ルニ地理ハ近傍ヨリ始メ歴史ハ古代ヨリ始ム既ニ其順序ヲ紊ルノ憾ナキ能ハズシテ其不都合モ亦少カラズ例ヘバ上古ノ歴史ニ於テ戰爭ノ事ヲ載スル其國名地名サヘ今時ト同シカラズ筑紫ノ國ト云ヒ吉備ノ國ト云フモ何レノ地ナルヤ知ル可ラズ若シ此沿革ヲ詳記スルガ如キ細微ノ事蹟ニ至テハ兒童ノ輙ク解シ得ザル所ナルノミナラズ亦太タ用ナキコトトス況ンヤ上古ノ事蹟近代ニ緣モナキ永キ年代ノ事ヲ年月ヲ逐フテ授クルガ如キハ寧ロ徒勞ニ屬スルニハアラザル乎、故ニ新案ノ教授法ニ於テハ先ツ建國ノ體制、神武ノ東征ノ如キハ先ツ其要略ノミヲ授ケ爾後年月ヲ推シテ之ヲ授クルヲヲ爲サズ小學歴史第一課業ニハ德川氏ノ末世嘉永癸丑我國開港ノ年ヲ以テ始トシ開國鎖國ノ說、勤王攘夷ノ論ヨリ幕府政權奉還、王政維新、制度更革等ノ事實ヲ以テシ次テ奥羽ノ戰爭、廢藩置縣、歐米回覽、征韓論、及ビ佐賀、萩、熊本ノ小亂ヨリ西南ノ役ニ至ルマデ時勢ノ變換事物ノ成敗ヲ揭ゲ其他蒸氣、電信、郵便、印刷等文明ノ利器ヲ利用シタル次第并開化進歩ニ赴キ一般風俗ノ變更等ヲ授クヲ近代ノ歴史トス是レ猶ホ地理科ニ於テ近隣ノ地理ヲ學ブト同樣ナリ、扨多數ノ生徒中ニハ第一課業ノミヲ終リ退學スルモノ多カラント雖モ近世ノ歴史ノ一斑ハ最早之ヲ了知シ一般ノ智識ヲ得テ當世ノ人タルニ愧ヂザルベシ、尚ホ進ンテ第二課ニ至テハ源平ノ盛衰、頼朝覇主トナルヲヲ始メトシ南北朝ノ兩立ヨリ群雄割據、織豊二氏覇主トナルヲヨリ德川氏ノ一統及ビ其治績ヲ以テシ、第三課ニ至リテ神武ノ即位以來歴代王政ノ次第ヲ順次ニ授ケテ源平ノ世ニ至ル是レ猶ホ地理ニ於テ畿内八道ノ地理ヲ學ブト同樣ナリ其ヨリ外國地理ノ大要ヲ學ブト同シク外國歴史ノ大要ヲモ學バシムベシ是レ歴史教授ノ新案ナリ、此ノ如クナレバ則チ後來ノ進歩ニ障礙ヲ與ヘズシテ當世ノ用ヲ爲シ初メテ歴史ヲ學ブノ眞面目ヲ得ルニ庶幾カラン乎

電報

○七月九日龍動發　生糸市場は一向に取引なし

○七月二日同所發　保守黨の集會よりては異議もなく改革議案(擴張權改革案)を拒絶する決議を採用したり○清國政府は郎楙の佛兵襲撃に就て一切の關係を拒めり

雜報

○大山陸軍卿佛國大統領を謁す　歐洲巡遊中なる大山陸軍卿の一行が伊太利より佛蘭西に赴きたる由は嘗て本紙に記せしが同卿は去る五月四日午前八時佛國巴里へ着十三日午前十一時隨行員を從へ蜂須賀公使と共に同國大統領の官邸に至りクレヴィ氏と鼎しさりと其節該話は裏官は左の如くありしと

(卿)今ヤ我　皇帝陛下ノ使ヒトス願クハ便宜ヲ與ヘ來佛國ト最親ノ國ナリ名譽ノ至リ隨テ卿ヲ一切ニ希望ス(卿從)陸軍ノ爲メ利益ヲ興ニ來リ各所巡覽ノコト嘖ナル誘導ヲ蒙リ深ニ歩ヲ開化ノ域ニ進スル所ナリ

右談話畢りて直に退出書記官が通譯をなせし

○ゼノア公大山陸軍卿ン府滯在中四月三十日り謁見せしに同公は先頗る欣喜せられ翌晩一其夜七時半より公の邸よりして公の母君、妹君、從等列席にて最も懇切せし由尤も此夜公の御しと

○事務引受　品川農商國へ出張不在中、兼任側ある全局へ出頭しの事を談じたるよし

○歸京　農商豆州熱海宮内省御用掛は御用濟

○三重縣令　今度新任賜さる旨仰渡されたり

○裁判所巡視　本月七仰付られたるとを揭げ巡視長井巡視を命せら

東京控訴裁判所管内巡視　檢事加

東京控訴裁判所乙部巡視　檢事林

大坂控訴裁判所管内巡視　檢事野

大坂控訴裁判所乙部巡視　檢事野

同巡視　檢事野

長崎控訴裁判所管内巡視　檢事河

同巡視　檢事河

廣島控訴裁判所管内巡視　檢事楠

名古屋控訴裁判所管内巡視　檢事和

宮城控訴裁判所管内巡視　檢事笹

國師控訴裁判所管内巡視　檢事中

同巡視　檢事中

○官員異動　農に京都控訴長桂一郎氏は一

技長桂本莊一郎氏は一